

令和3年8月25日

第70次 印旛地区教育研究集会

国語科「読むこと」分散会 提案資料

研究主題

主体的に読み，自分の考えを広げることができる生徒の育成



四街道市立四街道北中学校 国語研究部

目次

1 研究主題

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

(2) 学校教育目標から

(3) 生徒の実態から

3 研究仮説

4 研究基本構想図

5 実践例

○2学年 王はどのような人物か考える 『走れメロス』

○令和3年度版『走れメロス』指導案

○言語の授業での取り組み

6 成果と課題

1 研究主題

主体的に読み、自分の考えを広げることができる生徒の育成

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

国語科の目標は、次のとおりである。

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次の通りに育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

国語を正確に理解し適切に表現する資質・能力とは、国語で表現された内容や事柄を正確に理解し、国語を使って内容や事柄を適切に表現することである。正確に理解する能力と、適切に表現する能力は、連続的かつ同時的に機能するものであるが、表現する内容となる自分の考えなどを形成するためには国語で表現された様々な事物、経験、思い、考え等を理解することが必要である。

また、学習内容の改善・充実において、語彙指導の改善・充実が取り上げられている。語彙は、資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力を支える重要な要素である。語彙を豊かにするには、意味を理解している語句の数を増やすだけでなく、会話や文章の中で使いこなせる語句を増やすとともに、意味や使い方に対する認識を深め、語感を磨き、語彙の質を高めることである。

以上のことをふまえ、語彙指導を充実させることで正確に内容を理解した上で自分の考えをもつことができ、主体的に学習しようという態度が育まれる。また、自分の考えを言葉で書いたり、伝えたりすることを繰り返し行い、自分の考えを広げることで適切に表現する力が身につく「国語力」の向上につながると考えた。

(2) 学校教育目標から

本校の学校教育目標及びめざす生徒像は、以下のとおりである。

学校教育目標	豊かな心を持ち、主体的に未来を切り拓く生徒の育成
めざす生徒像	1, よく考え, 判断し, 実践する生徒 2, 思いやりがある心豊かな生徒 3, 明るくたくましい身体と強い精神力を備えた生徒

学校教育目標にある豊かな心をもつためには他者との関わりを通して自分自身だけでなく他者に対しても理解を深め、お互いを尊重し、自ら進んで努力したり行動したりしようとする態度や思いやりの心を育てていくことが必要である。また、主体的に未来を切り拓くには問題に直面した時に自分の経験や知識を使って解決する力を育てていくことが必要である。めざす生徒像についても、集団生活を通して思いやりがある豊かな心を育むとともに、お互いを尊重しながら個の特性を活かし、主体的に学校生活を送り、自分で考え、心身ともにたくましく未来を切り拓いていくことのできる生徒の育成を目指している。そのためには、様々な学習活動の中で自分の考えをもち伝え合うことで、多くの考えを知り他者を理解することが必要不可欠である。主体的に学習に取り組み、さまざまな意見に触れ、考えを広げることが、豊かな心を持ち、主体的に未来を切り拓く生徒の育成につながると考え本主題を設定した。

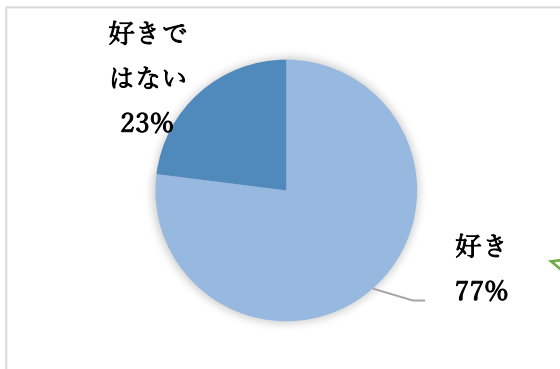
(3) 生徒の実態から

本校は、都市部の住宅が多い中央地区、昔からある住宅街の栗山地区、自然の残る農村部の大日地区に分かれている。小学校の規模や入学者の割合、保護者の教育への意識、地区の特徴の違いもあり、生徒の人間関係、学習や生活への問題意識、活動経験などもさまざまである。学習面においては、今まで県標準学力検査や全国学力・学習状況調査の結果を見ても平均を超えるがほとんどなく、顕著な学力向上が見られない状態が続いている。知識・技能の定着という面での課題が最優先事項であったため、「知識や技能の確実な定着のための指導の工夫」をテーマにどの教科も取り組み、ドリル学習の工夫や小集団での活動による基礎的な学力の向上のための指導の充実を図ってきた。

生徒指導面での学校や生徒の実態は以前とは大きく異なり、現在では生徒一人一人の手で豊かな校風を作り上げていこうと生徒会本部を中心に「四街道北中3つの宝」の「挨拶」「清掃」「歌声」の向上に取り組んでいる。しかしながら、学校生活や人間関係での不適応や個別対応・支援の必要な生徒は年々増加傾向にある。

本校の生徒は、自分の意見を持つてはいるものの、その意見を発表したり、伝え合ったりすることは苦手としている。また、規範意識はあるものの、自分自身の力でよく考え、判断できる生徒は少ない。千葉県標準学力検査においては、「言語についての知識・理解・技能」が最も低く、十分な語彙の力が備わっていないことがわかる。

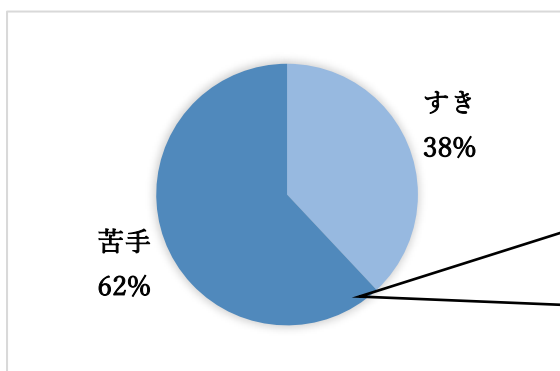
①国語の学習は好きですか。



国語の中でも好きな学習の内容は小説・物語を読む52%、漢字・文法21%が高く、詩・短歌9%、古文3%が低かった。

このことから、生徒は物語や小説などの本を読むことを好む傾向があることがわかる。

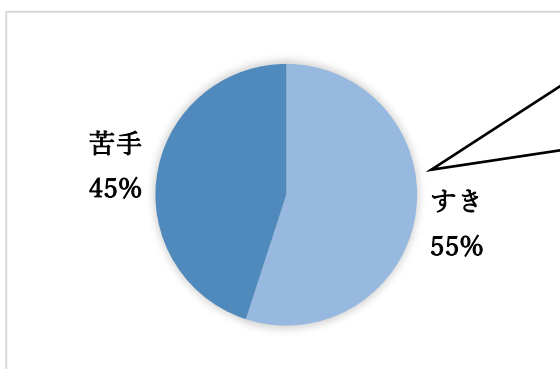
②話し合い活動や授業中に自分の思いや考えを友達に話すことは好きですか。



《苦手と答えた生徒の回答》

- ・自分の意見と友達の意見が違うと心配になる。
- ・自分の意見に自信がない。
- ・人前で話すのは恥ずかしい。
- ・自分の気持ちをうまく説明できない。

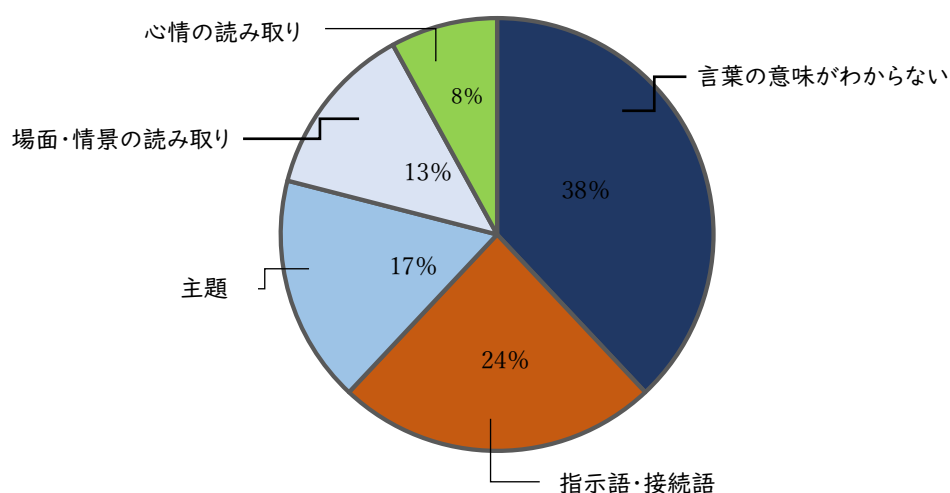
③自分の考えや思いを書くことは好きですか。



自分の考えを書くことは好きだと答えた生徒が半数以上いた。

このことから、自分の考えを表現するのは嫌いではないが、他者に伝えることが苦手だと感じている生徒が多いことがわかる。

④文章を読むときに難しいと感じることは何ですか。



文章を読むときに語彙の意味がわからず「難しい」と感じている生徒が約6割いることがわかる。

⑤その他の質問事項について

- ・国語の授業で難しいと感じる学習は何かという質問には半数近くの生徒が「四字熟語やことわざ」と答えた。「漢字」の学習が好きだと答えた生徒が3割いたことから、漢字を書いたり、読んだりすることは好きだが、言葉の意味はわからない生徒が多くいることが考えられる。
- ・宿題以外の家庭学習の時間は30分以内と答えた生徒が6割であった。(学校からの推奨時間は学年×10分)
- ・読書が好きと答えた生徒は7割であった。しかし読書をしている時間は30分以下が大半である。これは朝読書の時間にだけ読んでいる生徒数だと考えられる。

国語科に対しての関心・意欲は比較的高く、読書も好んでいる。しかし、自分の考えを相手に伝えることに苦手意識をもっている生徒が多い。少人数では自分の考えを伝えることはしようとはするものの、適切な言葉を選んで話したり書いたりすることが得意でない生徒が多い。国語は嫌いではないけれど、自分の思いや考えをどう言葉にして表現したらよいかかわからない生徒が多くいるのが現状である。また、自分の考えをもてない生徒や国語を苦手と感じている生徒も少なくない。そのような生徒は、朝読書時に意欲的に読書ができなかったり、すすんで教科書を読んだりすることができない。

以上のことより、生徒が関心をもてるような言語活動を設定し、自分の考えを話したり、書いたりする活動を通して、主体的に読む活動に取り組めるようになり、自分の考えを広げることができる生徒を育てたいと考え、本主題を設定した。

3 研究仮説

(1)仮説I

生徒の関心や経験を踏まえた言語活動をすること、語彙を豊かにすることで、より正確に文章が読めるようになり、主体的に読む活動に取り組むことができるだろう。

主体的に読むとは、「自分自身の意志や判断に基づいて文章を読むこと」である。まず、「なぜこの文章を読むのか。」といった文章を読む必要性を感じ、学習が進むにつれ「解決したい。」という思いが高まれば、主体的に読む活動に取り組むことができるだろうと考える。さらに、教師が「つけさせたい力」を明確にし、ねらいをしぼることで、より有効な言語活動を設定することができ、主体的に読む活動を高めていくことができると考える。

「語彙を豊かにする」とは、「自分の考えを表現するときに使いこなせる語句を増やすこと」であると考えられる。しかし、本校では、意味がわからない言葉が多いから文章を読むことが苦手だと感じている生徒が多い。どのような魅力的な文章でも、意味のわからない言葉多いと読む意欲も低下してしまう。自分の意志で読むためには、知っている語彙を増やすことが必要不可欠である。そこで「言語」に特化した授業を展開することで、新しい言葉を知り、新しい言葉を使う機会が増え、語彙が豊かになるだろうと考えた。

語彙を豊かにするには読書活動も有効な手段の一つである。図書室の本を利用して調べ学習をしたり、読書を促す活動を取り入れたりすることで、語彙の充実を図っていく。

手だて

①生徒の実態や教材の特質にあった言語活動の設定

- ・「読むこと」の必要性を感じられるような言語活動の設定
- ・見通しのもてる学習過程の工夫
- ・つけたい力を明確にし、有効な言語活動の設定

②言語活動の充実

- ・「言語」の授業を行う。(1・2学年)
- ・帯活動におけるフラッシュカードの活用(ことわざ・四字熟語など)
- ・北中歌壇・一首一句の掲示
- ・国語辞典使用の習慣化

③読書活動の推進

- ・図書室を利用した授業の展開
- ・学習した教材に関連した本の紹介
- ・生徒が作成したおすすめの本の掲示

(2) 仮説 2

話し合いなどの意見を交流する活動を取り入れ、考えの表現方法を工夫することで、他者との考えの違いや共通点を見つけ、自分の考えを広げることができるだろう。

自分の考えを広げるとは、「自分の考えになかったものを受け入れ、自らの考えに生かすこと」である。今まで考えたことのなかったものを知るには、他者と関わりながら学習を進めていく必要がある。人と違う意見だと、自分が間違っていると感じる生徒が多い。また、多数派の意見が正解であると感じている生徒も多くいる。意見を交流する場を日常的に取り入れることによって、人によって意見が違うことは当たり前であり、だからこそ面白いことに気づき、今まで知りえなかった視点で新しい考えをもつことができるだろう。また、一人では解決できない問題も、他者の考えを参考に自分の考えを広げたり、自分とは違った考えを聞いて自分の考えを深めたりできる。

話し合い活動においては回数を増やすだけでなく、話し合う際の工夫も生徒の自分の考えを深めることにつながると考える。話し合いの過程・結果を可視化したり、交流を深める発問を工夫したりすることで、生徒の考える力が養われると考える。また、小グループであっても自分の意見がはっきり伝えることができない生徒も少なくないので、生徒指導の機能を重視した授業を展開する。このようなことから、主体的に学びながら自分の考えをもち、広げていくことができるだろう。

手だて

① 思考の可視化

- ・ 教具の工夫（付箋・ホワイトボードなど）
- ・ 思考ツールの活用

② 発問の工夫

- ・ 交流を深めるための発問
- ・ ファシリテーターとしての発問
- ・ 生徒の実態や教材にあった発問

③ 生徒指導の機能を重視した授業展開

- ・ 自己存在感を与える …主体的な学びの場の設定（個に応じた声かけ）
- ・ 共感的人間関係を育成する …学習（話し合い活動の約束）の設定
- ・ 自己決定の場を与える …表現方法を選択する機会を増やす

国語科 研究基本構想図

実態

- ・語彙の力が十分に備わっておらず，文章を読むことを苦手とする生徒が多い。
- ・自分の意見に自信がなく，相手に伝えることがあまり得意ではない。



主題

主体的に読み，自分の考えを広げることができる生徒の育成



仮説

- 仮説1 生徒の関心や経験を踏まえた言語活動をすること，語彙を豊かにすることで，より正確に文章が読めるようになり，主体的に読む活動に取り組むことができるだろう。
- 仮説2 話し合いなどの意見を交流する活動を取り入れ，考えの表現方法を工夫することで，他者との考えの違いや共通点を見つけ，自分の考えを広げることができ

手だて

《仮説1》

- ①生徒の実態や教材の特質にあった言語活動の設定
- ②言語活動の充実
- ③読書活動の推進

《仮説2》

- ①思考の可視化
- ②発問の工夫
- ③生徒指導の機能を重視した授業展開



目指す生徒像

なぜこの学習をするのかわかった上で進んで読もうとする生徒

他者との意見交換を通して，自分の考えを広げることができる生徒

5 実践例

令和元年度 第2学年1組 国語科学習指導案

指導者 蜂谷 悠乃

1 単元名 考えを交流する ～走れメロス～

2 単元の目標

- ・抽象的な概念を表す語句の量を増やし、自分の表現に役立てることができる。 【知識・技能】(1)エ
- ・人称の変化に着目し、人物の心情や言動の変化を表すうえで役割や効果を捉えることができる。
【思考力、判断力、表現力等】(1)ア
- ・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

3 本単元における言語活動

メロスから見た王と王自身から見た王の人物像の違いを伝え合う。

4 単元について

(1)単元観

本単元は、学習指導要領の以下の内容を指導事項としている。

中学校第二学年 「C読むこと」目標

- ・「文章全体と部分の関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物の設定の仕方などを捉えること。」
【思考・判断・表現(1)ア】
- ・「文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。」
【思考・判断・表現(1)オ】

本教材は、メロスをはじめとした魅力的な登場人物の設定や関係、また、状況設定、発端、事件展開、山場、結末の物語としてわかりやすい構成をもとにしたストーリーのおもしろさや、走り続けていく中で、人間的な弱さや苦悩をさらけ出していくメロスの心情の推移、「友情」「信実」など学習者にとって身近で切実な問題がテーマとなっているなど、物語のもつおもしろさ、読みのおもしろさを存分に味わわせてくれる要素もっている。さらにはリズム感のあるいきいきした文体、登場人物の心情と重なり合って描かれている情景描写の数々、詳細で巧みな心理描写、語り手の視点の工夫など豊かな表現力にあふれている作品である。そのため、描写の効果や登場人物の言動の意味を中心にしながら内容を読み取らせ、さまざまな表現の仕方についてふれさせながら、文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連づけて自分の考えをもたせる学習を進めていくのに効果的であると考えられる。

また、本教材のもつテーマは、豊かな人間性を養い、たくましく生きる意志を育てたり、人間、社会、人生などについて考えを深めたりするためにも価値のある内容となっている。メロスとセリヌンティウスの友情

が人を信じることができない王に見せた信実,さまざまな困難に見舞われ,一度はくじけそうになるメロスが見せる人の心の弱さなど,生徒にも共感できる場面が数多くある。そのため,互いの意見を交換するなどの授業展開にも適しており,意見や感想の交流をとおし,互いの立場や考えを尊重する態度の育成にもつながっていくだろう。

(2)生徒の実態

2年1組は男子19名,女子15名,合計34名(特別支援学級2名)で構成されている。明るい生徒が多く,授業には概ね落ち着いた態度で取り組む。個別指導を要する生徒が数人いることや,深く考えることを苦手とする生徒も多くいることから,教科書の内容や答えを写すだけになってしまうことが多い。また,答えを求める発問をすると消極的な反応を見せることが多い。男女間の仲が良く,エンカウンターなどは意欲的に行うものの,自分の考えを述べる話し合いでは,他の人の発言を待ってしまう傾向がある。また,全体への発表のときには,自分の考えをはっきり述べられないことが多い。帰りの会で1分間スピーチを行っているが,考えをまとめて発表する生徒は少なく,思いついた言葉を発するだけになっていることが多い。

本単元の学習にあたり,事前に行ったアンケート調査の結果は以下のとおりである。

国語科アンケート(9月12日実施 32名中30名実施)

国語の学習の中で,好きなものは何ですか。					
小説、物語文	17人	説明文	5人	古典	1人
詩	1人	短歌	4人	漢字、文法	9人
話し合い活動や授業中に自分の思いや考えを友達に話すことは好きですか。					
好き	11人		苦手	19人	
好きな理由 ・周囲とコミュニケーションがとれるから。 ・友達との相違点や共通点を見つけあうことができるから。 ・自分と友達の意見を比較できるから。			苦手な理由 ・意見を言わなくても解決できるから。 ・自分の意見に自信がないから。 ・人前で話すのは緊張するから。 ・周囲と意見が違っていると自信が持てなくなるから。		

アンケートの結果では,小説や物語文の学習が好きと答えた生徒が17人と一番多かった。しかし,グループでの話し合いに関しては,苦手だと回答をする生徒が多い。苦手な理由として「自信がない」「人と答えが違っていると嫌だ」という回答が大半であった。

以上の実態をふまえ,今回は小グループでの活動を行い,一人一人の意見が反映されやすいようにする。自分の考えを話したり,書いたりするのが苦手だと感じる生徒も,他の意見を聞きながら読み進めることで,自分の考えをまとめていくことができると考える。また,他の意見を尊重しながら話し合いを行うことを助言することで,生徒指導の機能を生かした指導も行いたい。

(3)指導観

仮説1 生徒の関心や経験を踏まえた言語活動をすること、語彙を豊かにすることで、より正確に文章が読めるようになり、主体的に読む活動に取り組むことができるだろう。

本校の2年生は、国語辞典を引く、本や資料集を参考にしながらレポートを書くことなどには意欲的に取り組む姿が見られるため、単元ごとに意味を調べたり、自分でテーマを決めてレポートを書いたりする活動を行ってきた。しかし、感想や意見を書くときには、ありきたりな、表面的な表現しかできないことが多くあった。これは、一人で作品を読んでいるだけでは、読みが深まらないことが要因の一つだと思われる。そこで『夏の葬列』では、主人公が姉のように慕っていたヒロ子さんを艦載機の下になぜ突き飛ばしたのか、話し合い活動を取り入れ学習を進めていった。主人公の心情がわかる表現を探す学習では、活発な話し合いを行うことができたが、「なぜ突き飛ばしたのか」「自分が主人公だったらどうするか」のような自分の考えを述べるときには、消極的な姿勢が見られた。そこで今回は、小グループで王の人物像がわかる表現を抜き出し、王がどんな人物なのかグループで考えることによって、一つの答えを出す、問題解決的な話し合いを取り入れることにした。

仮説2 話し合い活動を取り入れ、考えの表現方法を工夫することで、他者との考えの違いや共通点を見つけ、自分の考えを広げることができるだろう。

話し合い活動の際、視覚的に種類わけができるように4色の付箋を使用する。また、『夏の葬列』では、生活班(5~6人)で行ったが、一部の生徒で話し合いが進んでしまう様子が見られたため、今回は小グループ(3~4人)を作り一人ひとりの意見が反映されやすいようにする。小グループでの話し合いは、学習になかなか取り組めない生徒にも考える機会をもつことを目的としている。自分の考えを述べるだけではなく、グループごとに誰の立場から見た王か、メロスの言葉から見る王と王の言葉から見る王では人物像が異なること、人間不信であったと言われる作者と人を信ずることができない王を重ね合わせることで、より話し合いが活発になるのではないかと考える。また、授業の内容や話し合いの流れがつかめるように、ワークシートを用いて授業を展開する。

5 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
①抽象的な概念を表す語句の量を増やし、多義的な意味を表す語句などについて理解している。	①「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えている。(C(1)ア) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ)	①すすんで登場人物の設定の仕方を考え、学習課題にそって自分の考えを深めようとしている。

6 指導と評価の計画(全8時間)

学習過程	時配	学習内容と学習活動	※仮説とのかかわり ●評価規準(評価の観点)
一次	1	・学習の見通しをたてる。 ・全文を通読し、あらすじをまとめる。 ・難意語句を理解する。	●場面ごとの内容をまとめている。 【思考・判断・表現】 ※意味の分からない語句を国語辞典で調べている。【仮説1】
	1	・全体の構成を捉え、第一場面、第二場面から状況設定や人物設定についてまとめる。	●全体の構成と出来事との流れを理解している。【思考・判断・表現】
二次 (本時)	1	・王に関する表現を抜き出す。 ・メロスから見た王と王自身から見た王の違いを比較する。	●王の人物像がわかる表現を抜き出している。 【思考・判断・表現】 ※メロスから見た王と王自身から見た王はどんな人物が話し合いを通してとらえている。 【仮説2】
	1	・王はどのような人物か、自分の考えをもつ。	●王の人物像について自分の考えを深めようとしている。【主体的に取り組む態度】
	1	・第三場面、第四場面での、メロスの故郷への未練、障害、迷いについてできごとをまとめる。 ・メロスは何のために走ったのか自分の考えをもつ。	●王城に行き着くまでの主な出来事を、叙述をもとに確認し、自分の考えを加えてまとめている。【思考・判断・表現】 ※メロスが走った理由を、話し合いを通してとらえている。【仮説2】

	1	・第五場面, 第六場面からメロス, セリヌティウスの言動や心情, 王の変化を捉え, そのことについて自分の考えをもつ。	●メロスやセリヌティウスの言動や心情, デイオニスの変化について自分の考えをまとめている。【思考・判断・表現】
三次	1	・メロスの人物像について本文の表現を引用しながら自分の考えをもつ。	●メロスはどんな人物が本文の表現を根拠に自分の考えをまとめている。【思考・判断・表現】 ※メロスの人物像について話し合い活動を通して自分の考えを深めている。【仮説2】
	1	・シラーの「人質」と比べ読みをして, 「走れメロス」との違いを考える。	※「人質」を読み, 自分の考えをまとめている。【仮説1】 ※「走れメロス」と「人質」の相違点について小グループで意見交換をする。【仮説2】

7 本時の指導

(1) 目標

- ・王の人物像がわかる表現を抜き出し, 王の人物像について自分の考えをまとめている。【思考・判断・表現】

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
5	【見出す】 1 本時の学習内容を確認する。	・本時の学習の流れを確認し, 課題を伝える。	教科書
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 王はどのような人物か考える。 </div>		
15	【自分で取り組む】 2 教科書の208ページ6行目までを音読し, 王の人物像がわかる表現を抜き出す。 邪知暴虐, 人を殺す, 乱心ではない, 人を信ずることができぬ, 臣下の心をも疑う, あきれた王, 暴君, 威厳, 顔は蒼白,	・なるべく短く, たくさん抜き出すよう伝える。 ○王の人物像がわかる表現を抜き出している。【思考・判断・表現】	ワークシート

<p>15</p>	<p>眉間のしわは刻み込まれたように深い、 孤独、疑うのが正当の心がまえ、人の心 はあてにならない、平和を望んでいる、 残虐、りこう、うぬぼれている</p> <p>3 全体で確認する。</p> <p>【広げ深める】</p> <p>4 抜き出した表現は誰の視点からの言 葉かグループで分類する。</p> <p>メロス…邪知暴虐、あきれた王、りこう、う ぬぼれている</p> <p>町の人…人を殺す、乱心ではない、人を 信ずることができぬ、臣下の心も疑う</p> <p>王…孤独、疑うのが正当の心がまえ、人 の心はあてにならない、平和を望んでい る</p> <p>作者…暴君、威厳、顔は蒼白、眉間のし わは刻み込まれたように深い、</p> <p>5 全体で確認する。</p>	<p>・4色の付箋を用意し、メロス・町の人、 王、作者の立場の4種類にわけよう 伝える。</p> <p>・グループで分類する前に、「邪知暴 虐」を例に出し、全体で確認する。</p> <p>・班ごとにこの表現は誰の立場からの 言葉か、聞いていく。</p>	
<p>15</p>	<p>6 メロスと王の立場から王という人を考 える。</p> <p>メロスからみた王：悪の象徴、わがまま で自分勝手、人を殺すことを何とも思っ ていない</p> <p>王からみた王：人間不信、過去に騙され た経験がある、寂しい</p>	<p>・分類した付箋を見ながら、メロス・町 の人・作者・王、それぞれから見た王の 印象を簡潔にまとめさせる。</p> <p>○それぞれの立場から見た王の違いに ついて自分の考えを、もっている。【思 考・判断・表現】(ワークシート)</p> <p>・時間がない場合は、ワークシートを回 収し、次時の授業で確認する。</p> <p>・次回はなぜ、メロスと王で違いがでる のか考えることを予告する。</p>	

(3)板書計画

【王の人物像】
邪知暴虐
人を殺す
乱心ではない
人を信ずることができぬ
臣下の心をも疑う
あきれた王
暴君、威厳、顔は蒼白、
眉間のしわは刻み込まれたように深い
孤独、疑うのが正当の心がまえ
人の心はあてにならない
平和を望んでいる、残虐
りこう、うぬぼれている

※右のものは模造紙で作成しておき、分類後、貼り返る。

	メロスの言葉から見た王	王の言葉から見た王
1	強硬、自己中心的	人間性、かまへない
2	絶対王政しそうな王	自分が愛せぬ王
3	悪知恵と持った	人の優いにもよらない
4	自分さ	うつ病
5	考えが深い	友(親しい人物)がいない
6	間違っているか	正しい間違っている
7	うさぎ、こねておぼろげ	かわいさ、優しさ

	王の言葉から見た王	メロスの言葉から見た王
1	さみしい	やばい人
2	冷静、頭がいい	最低、悪知恵が働く
3	かたし	自己中
4	かなしい	人としてダメなやつ
5	本当は優しい	人としていない王
6	優いからか、かまへない 悲しい	弱腰手な優しい人
7	人を信じられない王	人としての

○初めに、王の人物像がわかる表現をグループで抜き出す活動をしてから王の人物像について考えたので、本文の記述をもとに王の人物像を考えることができていた。

○ふせんを使用したことで、話し合いの流れが可視化され、話し合いがスムーズに進んでいた。

●王の人物像を考えるときに、学級によっては本文にある言葉を写しただけになってしまっているグループもあった。

上記の授業実践では、グループで人物像を抜き出し、意見を出し合ってメロスと王、それぞれの立場から見た王の人物像を自分たちの言葉で表現することを中心に学習を進めた。意欲的な活動をすることができたが、4種類の付箋でグループ分けをすることが本時の中心となってしまうと、王の人物像について自分の考えを広げることができていなかった。本文を読んだあとに王の人物像について自分の考えをもってからメロスと王、それぞれの立場から見た王の人物像を考えれば、より王の人物像について自分の考えが広がるのではないかと考えた。そこで、令和3年度版『走れメロス』の評価の計画と本時の指導を再考した。

令和3年度 第2学年「走れメロス」指導案

指導と評価の計画(全6時間)

※-線部は令和元年度からの変更点

学習過程	時配	学習内容と学習活動	●評価規準(評価の観点)
一次	1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しをたてる。 ・全文を通読し、あらすじをまとめる。 ・メロス・王・セリヌンティウスの印象をまとめる。 ・難意語句を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●場面ごとの内容をまとめている。 【思考・判断・表現】 ●登場人物の印象を自分の言葉でまとめている。 【思考・判断・表現】 ●意味の分からない語句を国語辞典で調べている。【知識・技能】
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の構成を捉え、第一場面、第二場面から状況設定や人物設定についてまとめる。 ・王の人物像がわかる表現を抜き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全体の構成と出来事との流れを理解している。【思考・判断・表現】 ●前時にまとめた登場人物の印象を話し合い活動を通して、もう一度考え、深めている。 【思考・判断・表現】 ●王の人物像がわかる表現を抜き出している。【思考・判断・表現】
二次	1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・メロスから見た王と王自身から見た王の違いを比較する。 ・王はどのような人物か、<u>自分の考えをもつ。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ●メロスからみた王と王自身から見た王はどんな人物が話し合いを通してとらえている。 【思考・判断・表現】 ●王の人物像について自分の考えを深めている。【思考・判断・表現】
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・第三場面、第四場面での、メロスの故郷への未練、障害、迷いについてできごとをまとめる。 ・メロスは何のために走ったのか自分の考えをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●王城に行き着くまでの主な出来事を、叙述をもとに確認し、自分の考えを加えてまとめている。【思考・判断・表現】 ●メロスが走った理由を、話し合いを通してとらえている。【思考・判断・表現】
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・第五場面、第六場面からメロス、セリヌンティウスの言動や心情、王の変化を捉え、そのことについて自分の考えをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●メロスやセリヌンティウスの言動や心情、ディオニスの変化について自分の考えをまとめている。【思考・判断・表現】
三次	1	<ul style="list-style-type: none"> ・メロスの人物像について本文の表現を引用しながら自分の考えをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●メロスの人物像について自分の考えを深めようとしている。【主体的に取り組む態度】

本時の指導

(1)評価基準

・メロスからみた王と王自身から見た王はどんな人物が話し合いを通してとらえている。

[思考・判断・表現]

・王の人物像について自分の考えをまとめている。[思考・判断・表現]

(2)展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
5	<p>【見いだす】</p> <p>1 本時の学習内容を確認する。</p>	<p>・本時の学習の流れを確認し、課題を伝える。</p>	教科書
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>王はどのような人物か考える。</p> </div>		
15	<p>【自分で取り組む】</p> <p>2 本文から抜き出した王の人物像がわかる表現を4つの視点に分類する。</p> <p>メロス…邪知暴虐, あきれた王, りこう, うぬぼれている</p> <p>町の人…人を殺す, 乱心ではない, 人を信ずることができぬ, 臣下の心も疑う</p> <p>王…孤独, 疑うのが正当の心がまえ, 人の心はあてにならない, 平和を望んでいる</p> <p>作者…暴君, 威厳, 顔は蒼白, 眉間のしわは刻み込まれたように深い</p>	<p>・前時の授業で現時点での王の人物像について自分の考えをもち, 王の人物像がわかる表現を抜き出しておく。</p> <p>・「邪知暴虐」を例に出し, 全体で確認する。</p>	ワークシート
15	<p>【広げ深める】</p> <p>3 抜き出した表現は誰の視点からの言葉かグループで確認する。</p>	<p>・4色の付箋を用意し, メロス・町の人, 王, 作者の立場の4種類にわけよう伝える。</p> <p>○メロスからみた王と王自身から見た王はどんな人物が話し合いを通してとらえている。【思考・判断・表現】</p>	

15	<p>4 全体で確認する。</p> <p>5 メロスと王の立場から王という人を考える。 メロスからみた王：悪の象徴, わがままで自分勝手, 人を殺すことを何とも思っていない 王からみた王：人間不信, 過去に騙された経験がある, 寂しい</p> <p>【まとめあげる】</p> <p>6 メロスからみた王と王からみた王の人物像の違いを考える。</p> <p>7 今までの学習を振り返り, 王はどのような人物か自分の考えをまとめる。</p>	<p>・班ごとにこの表現は誰の立場からの言葉か, 聞いていく。</p> <p>・分類した付箋を見ながら, メロス・王, それぞれから見た王の印象を簡潔にまとめさせる。</p> <p>・どのような違いがあるのか, なぜ違うのかまで考えるよう促す。</p> <p>○王がどのような人物か, 自分の考えをまとめている。【思考・判断・表現】</p> <p>・ワークシートを回収し, 王の人物像についてどのように考えが変化したか把握する。</p>	
----	--	--	--

《言語の授業の取り組み》

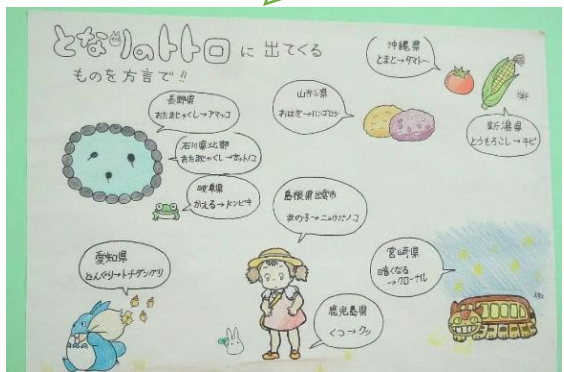
本校の1・2年生は週に一度「言語」の授業を行い、語彙に特化した学習を行っています。「言語」では漢字・文法のみならず、図書室の本を利用した調べ学習や本の紹介、行事をテーマに俳句・短歌を詠む「北中歌壇」などの言語活動を行っています。

【授業例① 方言と共通語 ～地方の方言を調べよう～】

図書室の本を利用し、各自のテーマに沿って、方言を調べ、レポート用紙1枚に自由にまとめる授業を展開しました。

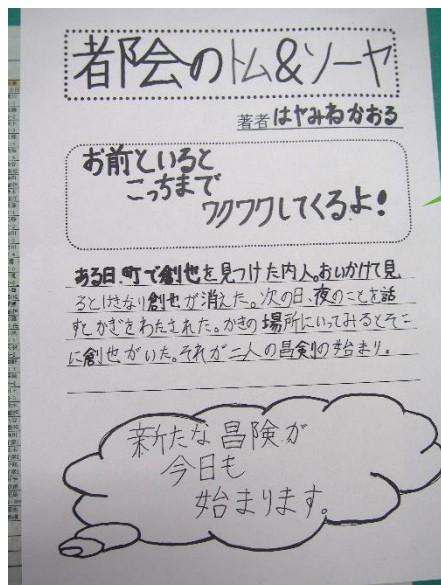
全国の「しあさって」の言い方を調べ、日本地図を用いて地域ごとの違いをまとめました。

となりのトトロに出てくる言葉をイラストを交え、いろいろな地方の言い方をまとめました。



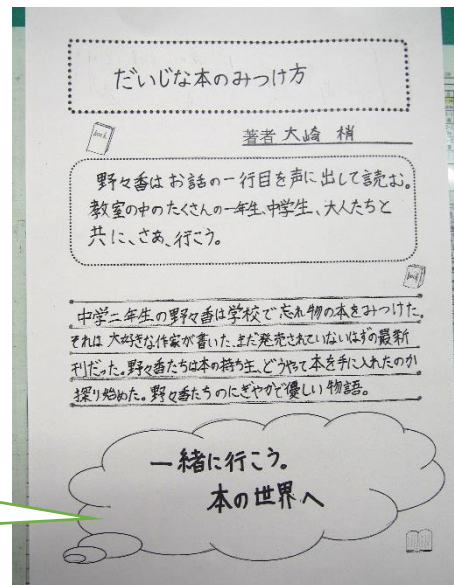
【授業例② 本の紹介 ～読者を惹きつけるキャッチコピーを考えよう～】

お気に入りの一冊を決め、本の紹介を行いました。本のあらすじを書くだけでなく、「お気に入りの一行」「キャッチコピー」を書き、自分のお気に入りの本をたくさんの人に読んでもらうための工夫を凝らして、本の紹介を書きました。図書室にある本で書いた生徒の作品は、図書室に掲示しました。



「お気に入りの一行」

「キャッチコピー」



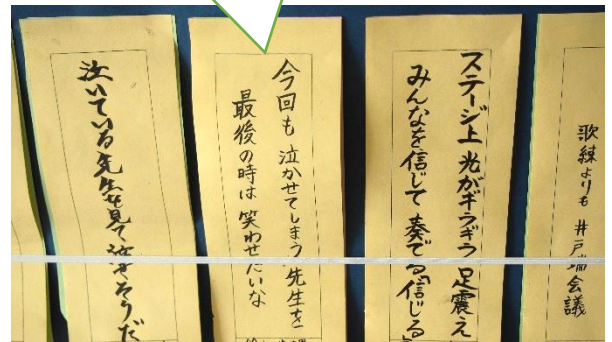
【授業例③ 北中歌壇 ～〇〇で一句一首～】

本校では、主に行事をテーマに俳句・短歌を詠むことを全学年で行っています。生徒の作品は廊下に掲示し、生徒による投票で優秀な作品には金・銀・銅賞を授与しています。

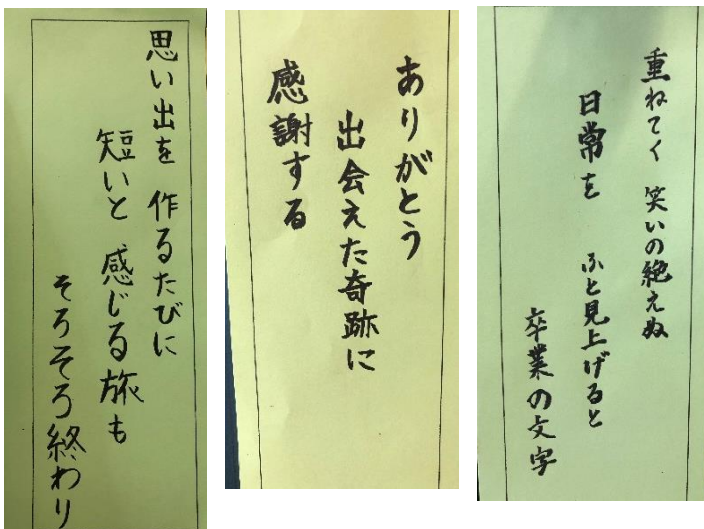


各学級の廊下に掲示しています。

合唱コンクールで一句一首



卒業に向けて一句一首



3年間で12回ほど一句一首を詠んでいます。1年生の始めは五・七・五の形式で詠むことを目標にし、回数を重ねるごとに、感情を表す言葉を使わないようにするなど段階を踏んで指導をしています。

清書では全員筆ペンを使用して、書字の練習もしています。

【授業例④ 思いやりトレーニング】

帯活動の一環として、宮口幸治『社会面のコグトレ 認知ソーシャルトレーニング①』を参考にし、国語の時間のみならず、認知ソーシャルトレーニングを行いました。自分の考えを表現するだけでなく、同じ絵や状況でも人によって考え方・感じ方が違うことを知り、さまざまなものの見方ができるよう促しています。

思いやりトレーニング (悩み相談室)

A君は悲しんでいます。

今度のスポーツ大会で、やっと選手に選ばれたのに、けがしちやって、試合に出られなくなっちゃった。ずっと練習してきたのに、とても悲しいよ。

A君の話はB君とC君が聞いてあげました。A君はB君の声のかけ方にガッカリし、C君の声のかけ方には気持ちが楽になりました。B君とC君はそれぞれどんな声をかけたと思いますか。考えて書きましょう。

B君



B君には言わなきゃよかったな...

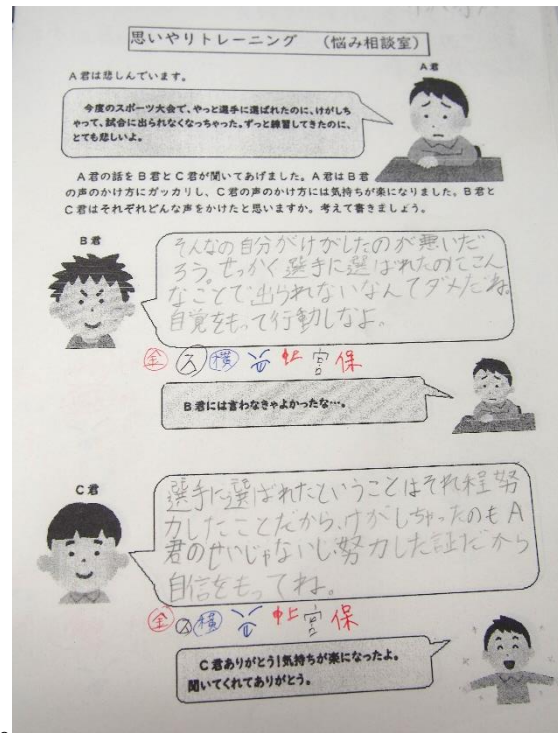
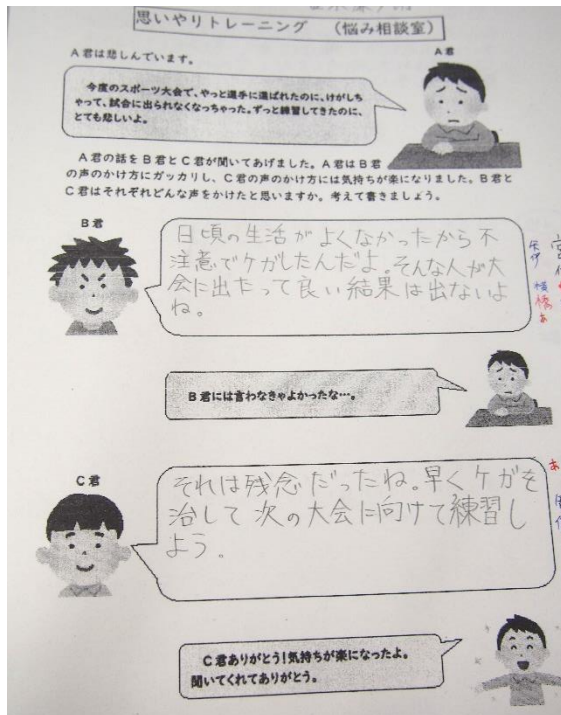
C君



C君ありがとう! 気持ちが楽になったよ。聞いてくれてありがとう。

生徒の感想より

- ・考えていることが同じだったり、違ったりしていて、いろいろな意見が聞けておもしろかった。
- ・自分が良いと思っていることも、相手からみたら違ったように受け取っていることがあって、仲が良くて自分の考えと友達の考えは違うことがわかった。
- ・いろんな人から参考になる意見を聞いた。自分が今まで思いつかなかった考えを聞くことができた。



6 成果と課題

(1) 生徒の変容

アンケートより

質問内容	令和元年1学期	令和2年1学期
国語の学習は好き	77%	79%
友達に自分の考えを話すことが好き	38%	56%
自分の思いを書くことは好き	55%	62%

○友達に自分の考えを話すことが好きと答えた生徒が増えた。好きと答えた理由を「友達の考えを聞くことが楽しいから」「考えの違いを知ることが面白い」と答えた生徒が増えた。

○読書量については、読んでいる時間や図書室の貸し出し冊数など大きく増えることはなかった。

千葉県標準学力テストの結果より

	令和元年度2年生	令和2年度3年生	令和2年度2年生
読む領域	59.4	62.5	66.6
言語事項	53.6	67.7	68.9

○同じ生徒の変容として、2学年から3学年で、読む領域・言語事項で点数が上がっている。

○他学年でも読む領域、言語事項で点数が上がっている。

(2) 研究仮説についての成果と課題

仮説1

生徒の関心や経験を踏まえた言語活動をすること、語彙を豊かにすることで、より正確に文章が読めるようになり、主体的に読む活動に取り組むことができるだろう。

○つきたい力を明確にすることで、何のために学習するのかを理解して取り組む生徒が増えた。

また読む目的がわかったことで、読む活動が積極的になった。

○活動によって意欲が変わるため、どんな言語活動があるのかを示し、実態に合わせたものを選ぶとよい。

○「言語」の授業で、語彙を増やしたり、言葉で表現する機会を増やしたりしたことで、文章を読むことに抵抗を感じる生徒が減った。

●全ての単元で、興味関心をもとに言語活動を設定することは難しい。

●主体的に読めたかをはかる基準を明確にすることで、より成果があげられたのではないか。

話し合いなどの意見を交流する活動を取り入れ、考えの表現方法を工夫することで、他者との考えの違いや共通点を見つけ、自分の考えを広げることができるだろう。

- 小グループでの話し合い活動を多く取り入れたことで、自分の考えを伝えることに抵抗を感じる生徒が減った。
- 北中歌壇や思いやりトレーニングを通して他者の考えを知る機会が増えたことで、考え方の違いが面白いと感じる生徒が増えた。
- 思考ツールや話し合いの流れを可視化したことで、自分の考えに自信をもち発言する生徒が増えた。
- 交流した後、自分の考えを再構築するのではなく、他者の良いと感じた意見をそのまま書く生徒が多かったため、さまざまな考えを知ったあと、どのように自分の考えに結び付けるか工夫が必要であった。
- 話すこと自体が苦手な生徒へむけて、話し合い活動以外の言語活動をもっと設定したほうがよい。

(3) 今後の研究について

「主体的に読み、自分の考えを広げることができる生徒の育成」を目指して研修を進め、主体的に読む生徒が増え、自分の考えをもち、さまざまな視点から考えを広げようとする姿が見られるようになった。これから、さらに考えを広げ思考力・表現力が身につけられるようにするには、どのような手だてが有効か研究していきたい。

多くの言語活動を取り入れ、教師側が楽しんで授業を工夫していくことも、生徒の興味関心や学習意欲が高まる一つの要因であることも実感することができた。これからも「すべては子どもたちのために」教師一丸となって研鑽していきたい。